

科目名	担当教員	学期	単位
リサーチデザイン	日野 愛郎	後期	2

### 講義概要

本科目では、実証的な調査・研究設計-リサーチデザイン-の方法について学ぶ。ジャーナリストとしてある事象を調べる時、そこにはさまざまなアプローチが存在する。インタビューを通して取材を重ねることもあれば、当該事象を計量的に分析することもあるかもしれない。アプローチが質的であれ量的であれ、そこには共通した一つの視角が存在する。それは、物事を帰納的に見る、すなわち、史料・資料の観察を通してあることを明らかにし、何らかの経験則を探ろうとする視点である。本科目は、こうした実証的な研究・調査を行う際に必要となる一連の科学的・統計的な手続き・手法を習得することを目的とする。

### シラバス

本科目の前半部（第1回から第6回）は、毎回複数の文献を読んできてもらい、テーマに沿ってディスカッション形式で授業を進める。リーディングを済ませていない学生は、受講を認めないので注意すること。前半部の終了時点で、各自のプロポーザルを提出してもらう。後半部（第7回から第15回）は、コンピュータ演習(ExcelやSPSS)を交えながら統計分析の初歩を学ぶ。受講生に統計の基礎知識は要求しないが、コンピュータ作業にある程度慣れ親しんでいることが望まれる。毎週ドリル式の宿題を課し、評価の対象とする。最終回に自らが立てた仮説を検証するアサインメントを提出してもらう。分析に使用するデータは提供する。毎週の予・復習が求められる。

- 第1回 リサーチデザインとは
- 第2回 リサーチクエスチョンを立てる：仮説の提示
- 第3回 概念を具体化する：作業化
- 第4回 因果関係を特定する：統制変数の設定
- 第5回 ケースを選択する：セレクションバイアスの認識
- 第6回 資料を収集する：データの構築
- 第7回 資料を知る：基本統計量の記述
- 第8回 相関を調べる：変数の標準化
- 第9回 関係性を見る：クロス表の作成
- 第10回 確からしさを調べる：信頼区間の推定
- 第11回 結果を説明する：回帰係数の計算
- 第12回 他変数を統制する1：重回帰分析
- 第13回 他変数を統制する2：三次元のクロス表分析
- 第14回 分析を報告する：仮説の検証
- 第15回 アサインメントの提出

### 教科書

- ・高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年。
- ・谷岡一郎『「社会調査」のウソ-リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書、2000年。
- ・村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士（共編）『SPSSによる多変量解析』オーム社、2007年。

### 参考文献

- [何れも、該当箇所を配布する予定である]
- ・キング・コヘイン・ヴァーバ、真淵（訳）『社会科学のリサーチ・デザイン-定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。
  - ・久米郁男「事例研究：定性的研究の方法論的基礎」（清水和巳・河野勝（編）『入門 政治経済学方法論』東洋経済新報社、2008年所収、第5章）。
  - ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門（基礎統計学I）』東京大学出版会、1991年。
  - ・吉田寿夫『本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998年。
  - ・増山幹高・山田真裕『計量政治分析入門』東京大学出版社、2004年。

### 評価方法

授業における参加・貢献度（20%）、統計分析の宿題（30%）、中間プロポーザル・学期末アサインメント（50%）を評価対象とする。授業前にリーディングを済ませていない場合は参加を認めないので注意すること。無断欠席、遅刻は減点対象とし、3回以上欠席した場合は、原則として単位を認めないので注意されたい。

### 関連URL

### 備考